



渋沢栄一についてのコラムです。読んでみましょう。

①約 500 の企業の設立や経営に関わった渋沢栄一。何と称されている？

.....

②渋沢栄一が説く「論語と算盤」の考え方を 20 字以内で説明してください。

.....

.....

③「かの力」と「との力」の説明文を（ ）に言葉を入れて完成させてください。

「かの力」：白か黒か。0か1か。()の効率化に不可欠。


「との力」：一見矛盾するが合致する方向を探ると成果が出現。「か」ではできない()を生む。

④渋沢栄一は「真に理財に長ずる人は、よく集むると同時によく散ずるようであらぬ」という言葉を残しましたが、なぜ「よく散ずる」ことが必要なのですか。あなたの意見を書いてください。

.....
.....
.....
.....
.....

東西南北

2020.4.13



今なぜ渋沢栄一（顔写真）なのか。幕末から明治への大変革の時代を生き、約500の企業の設立や経営に関わった。「日本資本主義の父」と称される渋沢の生きざまは、平成から令和への転換点の現在に通じるという点か▼渋沢は「論語と算盤」を説いた。「論語は道徳、算盤は経済、これを合致すべしとする考え方。経営者がいかに大富豪になっても、そのために社会の多数が貧困に陥っては幸福は継続されない。正しい道理の富でなければ永続することはできない。二つのかけ離れた存在を一致させることが極めて大切」と玄孫にあたる渋沢

健氏は読み解く▼健氏は特にこの「と」が重要とする。物事を選別し区別する「か」では創造はできない。一見矛盾するが諦めず合致する方策を探ると、ある瞬間に成果が出現する。組織運営に不可欠な「かの力」ではあるが、加えて「との力」を持つべきだと健氏。AIが絶対的に得意なのは「かの力」。人間は「との力」に勝機がある▼来年のNHK大河ドラマに描かれ、2024年度から新1方円札に登場する渋沢。健氏著「渋沢栄一100の訓言」には「真に理財に長ずる人は、よく集むると同時によく散ずるようであらぬ」とある。渋沢に「暗いところは嫌いじゃ」と言われぬよう、タンス預金に新1万円札を回さず消費や寄付、投資に生かしたい。